

平成30年度日南市立飢肥中学校学校関係者評価書

4段階評価 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

評価項目	評価指標	方策・手立て	学校の自己評価コメント	自己評価		関係者評価	結果の考察・分析(○)・改善策等(☆)
				項目	総合		
(1) 学力の向上 目指す生徒像「自ら学ぶ生徒」	1 授業の工夫・改善 (他者から・自ら)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定着・習熟の時間を工夫した学習指導を行う。</li> <li>・全職員が研究授業を実施し、教師の授業力向上を図る。</li> <li>・全国学力調査、みやざき学力調査の実態をもとに基礎学力定着のための授業改善計画を立て、表現力の育成を重視した授業づくりに努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○定着・習熟の時間を工夫した授業研究ができた。市の本校研究会でも本校2年間の研究の成果がみられた。</li> <li>○一人1回研究授業を行うことで、授業力向上につながった。</li> <li>○研究授業を全員行え、その後の授業研究会もでき、付箋を用いた授業研究など今後につながる取組もできた。</li> <li>○朝自習や校内テストに日南チャレンジの問題を活用した取組ができた。</li> <li>●各種テスト分析は行ったが、それを活用した取組が具体的かつ計画的にできなかった。</li> </ul>	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業内容理解度の生徒アンケートから国語、数学、英語は伸び、理科は下がっている。今後も結果の分析を進め、定着・習熟の時間を工夫した学習指導に努めてほしい。</li> <li>○ 参観日やオープンスクールを通して、姿勢・発表力などの定着をはじめ、生徒の落ち着いた学習態度の育成が図られている。</li> <li>○ 課題提出率は昨年度に比べ、伸びていることから家庭学習の充実がうかがえる。今後も見届け指導を継続してほしい。</li> <li>○ 教科、総合的な学習の時間、部活動等で飢肥の土地柄を活かした活動や高齢者との交流など、生徒に多くの体験をさせる場を設けたことは評価できる。</li> <li>○ 子供の声を聞き励ます会や立式式での生徒発表は、姿勢、発表内容ともすばらしかった。</li> <li>☆ 次年度も授業研究会を充実させ、教師間で授業力向上を図る取組をしていけば、生徒の学力向上が図られるであろう。</li> </ul>
	2 地域の特徴を生かした教育活動の推進と充実 (社会から・自然から)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者とのふれあい活動で飢肥の特徴を知る。</li> <li>・職場体験学習で地域の特徴を体験すると共にキャリア教育の推進を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者とのふれあい活動ができ、地域の方々との交流が深められた。</li> <li>○職場体験学習や飢肥の街探索、伝統芸能体験など地域の特性を生かした活動が計画的に行えた。</li> <li>●総合的な学習の時間を利用して各学年工夫して取り組むことができたが、全学年を見通したキャリア教育の充実が課題である。</li> </ul>	3			
	3 基本的な学習習慣の確立(姿勢、発表力等) (他者から・自ら)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業約束5を活用し、授業中の姿勢に気をつけさせる。</li> <li>・校内研究と関連して、表現力の育成に努める。</li> <li>・立腰、1分前着席の徹底を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○表現力やコミュニケーション能力の育成に向けて計画的に取り組み、授業との関連をもたせることができた。</li> <li>○チャイム黙想や立腰を毎授業で徹底できた。</li> <li>●小中合同研修により、小中一貫した学習指導の確認を行ったが、経過確認や継続的な意識付けは不十分であった。</li> </ul>	3			
	4 家庭学習の充実(課題の見届け、指導) (自ら)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題一覧表を作成し、個に応じた支援を図る。</li> <li>・見届けを行い、最後まで提出させて確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○長期休業では、登校日やサマースクールによる課題の点検や支援を行い、最後まで取り組み提出できるよう取り組めた。</li> <li>●繰り返し指導しても宿題の提出ができない生徒がいた。</li> </ul>	3			
(2) 積極的な生徒指導の推進 目指す生徒像「心豊かな生徒」	1 規範意識の高揚と挨拶等の礼儀指導の充実 (他者から・自ら・社会から)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集会での礼法指導を充実させる。また、部活動を中心に「朝のあいさつ・清掃運動」を推進する。</li> <li>・毎朝の立腰指導を実施する。</li> <li>・生徒にしっかりと目的意識をもたせ、委員会活動や清掃指導の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○清掃ボランティア、挨拶運動など、生徒会や部活動で実施できていた。</li> <li>○充実した集会活動を行った。</li> <li>●清掃活動の一層の充実を図らなければならない。</li> </ul>	3	3	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 規範意識の高揚と挨拶など基本的な生活習慣の充実については、生徒、保護者、地域の方々へのアンケート結果からすべてにおいてかなり高く、生徒自身の意識の高さをうかがえる。</li> <li>○ 本年度も体育大会、文化発表会等で生徒が熱心に取り組む姿が随所に見られ、生徒会活動の活性化が図られていることを感じる。そして、生徒会役員への先生方の指導力の高さには関心する。</li> <li>○ 部活動の実施については、休日の確保など活動への制限が厳しい中でも積極的に活動されたり、地域のボランティア活動にもよく参加されたりと、部活動の活性化と充実が感じられる。また、学校だよりでも活動の報告がされて、その様子もよく理解できた。</li> </ul>
	2 生徒会活動の活性化 (他者から・社会から)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主的な生徒会活動となるように各委員会組織の指導を丁寧に行う。</li> <li>・生徒会を主体とした活動となるように指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計画的な生徒会活動の充実を心がけ意欲的に活動していた。</li> <li>○学校行事で中心となり活動し、行事の活性化に貢献した。</li> <li>●生徒数の減少に伴い、組織の在り方を検討する必要がある。</li> </ul>	3			
	3 学年・学級づくり (社会から・自ら)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめアンケートを毎月実施し、いじめの未然防止と解決にあたる。</li> <li>・年3回の教育相談期間を設け、よりよい人間関係づくりに努める。</li> <li>・スケジュールノートの活用により見通しをもった行動をさせる。</li> <li>・朝の会、帰りの会で1分間スピーチを実施し、自己存在感の育成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎週の生徒指導連絡会で共通理解が図られ、いじめや問題解決に向けて全職員で早めに対応できた。</li> <li>○節目ごとの教育相談により、教師と生徒のよりよい人間関係づくりができた。</li> <li>○スケジュールノートの活用ができるようになってきた。</li> <li>○全学年とも継続的に1分間スピーチが実施され、一人一人を大切に作る学級づくりができていた。</li> <li>●忘れ物0に向けてまだまだ課題がある。</li> </ul>	3			
	4 部活動の活性化と充実 (他者から・自ら)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・練習時間の確保と指導者の指導する場を徹底する。</li> <li>・日南ルール(休養日の確保)を意識して部活動を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○どの部活動も意欲的に取り組み、指導者の意欲も感じられ、県大会出場も増えた。</li> <li>○毎月の計画表作成により、休養日の確認ができた。</li> <li>●各種大会の精選に努め、十分な休養ができる計画づくりに努力したい。</li> </ul>	3			
	5 安全教育の充実と健康・食育の充実 (自然から・自ら)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練の実施や経路の確認をする。</li> <li>・食への関心を高め、肥満をなくし健康な体をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○避難訓練を計画的に実施できた。</li> <li>○個人的な肥満対策のアドバイスが身体計測後の年度当初にできた。</li> <li>●食育、肥満対策への全職員による取組が不十分である。</li> </ul>	3			
(3) キャリア教育の充実を目指す生徒像「たくましい生徒」	1 個性を生かす進路指導の充実 (他者から・自ら)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路の情報を整理し、ニーズに応じて適切な情報を提供する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計画的に進路指導を行い、必要な情報提供に努めた。</li> <li>●進路に対する意識に個人差があるため、さらに細かね計画立案をする必要がある。</li> </ul>	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高校のオープンスクールによく参加することは、主体的に進路選択を促す機会になっていると考えられる。また、職場体験学習や立式式では、自分の将来の夢について考える機会になっている。</li> <li>☆ 進路意識の高さには個人差があると思うが、進路コーナーを設置するなど、高校や進路情報を提供する具体的な工夫をすることで将来の自己実現を図ってもらいたい。</li> </ul>
	2 主体的に進路選択できる能力の育成 (自ら・社会から)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場体験学習等、体験活動の機会を増やし、自ら学ぶ経験を多くさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○2年生・3年生への高校オープンスクールの呼びかけが積極的にできた。</li> <li>●職場体験学習の経験を生かす取組は、時間不足もあり不十分であった。</li> </ul>	3			
	3 将来にわたって自己実現を図ることの出来る能力や態度の育成 (社会から・自ら)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの長所を知り、将来の自己実現を図る。</li> <li>・社会への関心を高め、それを理解して将来設計の能力を伸ばす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○立志式、職場体験学習が自分を知るとても良い機会となった。</li> <li>○教育相談週間を毎学期に設定し、進路指導や生徒指導等の生徒との共通認識を図り指導に役立てる場を設定している。</li> <li>●進路コーナーの設置など、職業や高校の情報等を提供する工夫が不十分であった。</li> </ul>	3			
(4) 特別支援教育の充実	1 知的障がいや情緒障がいの特性や行動を理解した個別の指導計画作成 (自ら・他者から)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員研修等で正しい知識を理解し、個別の指導計画を作成する。</li> <li>・特別支援コーディネーターを中心としたサポートを全職員で行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年度当初の生徒理解研修や校内支援委員会を毎週実施するなかで、生徒理解や個別対応の方法などの共通理解・実践ができた。</li> <li>●職員研修を充実させ、指導者のスキルアップを図る必要がある。</li> </ul>	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特別支援教育については充実されている。</li> <li>○ 生徒理解や校内支援委員会の充実が図られ、個に応じた授業の取組が行われている。</li> <li>☆ 特別支援について、全職員で共通理解を図ることに加え、支援の手立てなどのスキルアップの研修などを計画的に実施し、更なる指導の充実を図ってもらいたい。</li> <li>☆ 通常学級で支援が必要な生徒への対応を特別支援コーディネーターを中心に取り組み、成果もみられる。今後も、さらに全職員によるサポート体制を図ってもらいたい。</li> </ul>
	2 個々の将来を見通した社会的自立への支援 (社会から)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の個性を理解し、全職員で共通理解を図る場を設定して情報の共有化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎月、生徒指導連絡会を開き共通理解する場を設定することができた。</li> <li>○個別対応の時間割が作成され、授業に複数で対応することで一人一人に応じた指導ができていた。</li> </ul>	3			
	3 校内協力体制等の確立 (自ら・他者から)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援コーディネーターを中心として全職員体制のサポートチームを編成して取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内で協力して取り組むことができた。</li> <li>●通常学級で支援が必要な生徒のサポートの充実を図る必要がある。</li> </ul>	3			
	4 関係諸機関との連携 (社会から)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会、児童相談所、こども課、通級教室等との連携を密にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒指導等、管理職を中心に関係機関と連携できていた。</li> <li>○必要に応じてケース会議を開き、具体的な指導を行うことができた。</li> </ul>	3			

次年度の方向性についての校長所見

本年度は学力向上を目指した本校研究の2年目で、本校で研究公開も行われたこともあり、学力の定着・習熟を図る取組が計画的に実施された。生徒会活動の充実も図られ、成果があった。指摘された課題に対しては、分析を行うと共にその手立てを立てて生徒の指導に当たっていきたい。

